

予算即決算主義による方針・計画の実践策

予算即決算主義による方針・計画の実践策

1. 「予算即決算主義」は事業経営の鉄則

「予算即決算主義」は、東急グループの創業者・五島慶太氏の提唱した経営原則であり、経営者のなすべき4つの責務として、

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 経営方針の即日徹底(2) 予算即決算(3) 金利支払い、減価償却の励行(4) 人材育成 |
|--|

という4つを挙げている。

目標、予算とは「達成されるべき結果の割り付け」と定義されるように、できれば達成したいというような希望的観測値ではない。企業経営は1年12ヵ月、12回戦の戦いをやるようなもので、毎月、毎月確実に達成することが基本である。

目標を必ず達成し、償却をしっかり行い、金利の3倍以上の営業利益を上げていくためには、経営方針を即日徹底し、人材育成を実践していくことである。

2. 理念、方針なき企業は勝ち残れない

予算即決算主義は、予算どおり実績が上がれば文句はない。しかし今日のような厳しい経済環境の中で、企業は売上計画の未達に苦しんでいる。経営陣の4つの仕事――

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 経営方針を明示する・・・社員の迷いをなくす(2) 方針達成のための組織をつくる・・・社員を正しく評価し適材配置(3) 目標、計画をつくる・・・タイムリーにチェック、修正する(4) 部門間の調整をする・・・正しい判断基準を持たせ、人材育成する |
|---|

が、きっちり出来ていないと予算即決算どころではない。まったくのバラバラ、無責任集団を生み出すだけである。そこで、経営方針、部門方針づくりのための幹部研修を実施し、方針、目標の共有化を図ることが必要となってくる。

さらに「経営ドック」といわれる自社点検のメソッドで、方針計画を組み立てる。このプロセスでトップ、幹部の一体感を確立する。ドックメソッドとは、「知る」「選ぶ」「行動する」の3つのステップからなっている。

第一ステップは業績の核心を押さえる現状認識作業である。この押さえ方を間違うと、

サンプルレポート

本レポートは、サクセスネットで公開している
ビジネスレポートの一部を公開したサンプルです。
サクセスネットサイトにログインした後、全文を
閲覧することができます。